

事例1-2

取組名	組長アンケートを通じた意見集約及び改善計画への反映		
町会名	つきみちよう 月見町町会（鎌田地区）	町会 データ	・人 口／575 人 ・世帯数／285 世帯 ・高齢化率／42.1% ・町会加入数／220 世帯 ・隣組数／19 組
取組概要	○ 年2回のアンケートを通じて、組長から意見・要望等を聴取し、組織・行事の見直し等の運営改善を推進 ○ 最近町会内で発生した災害を反映した町会運営		

背景・課題

- ・ 町会員の多くは、町会発足当初からの持ち家世帯であるが、子世代は町会外へ転出後、戻ってこないケースが多い。そのため、高齢者のみの世帯が増加し、組長等を担える人材が年々減少している。
- ・ その一方で、新築による若年世帯の転居者も増えているため、町会にとっては好材料である。従来の町会活動を、今後、若い世代がより参加しやすい町会運営に変えていく必要がある。

経過・取組内容

- ・ 組織運営改善に向け、組長の意見を聞くため、アンケートを年2回（8月・3月）実施し、結果は必ず組長会に報告することとした。
 - ・ 組長から出された意見・要望については、実施の可否を回答するほか、優れた提案があれば積極的に改善計画に反映するものとし、実際に次のような取組みを進めた。
- ① 現状の世帯数に合わせた隣組の再編
 - ② 女性部を女性でなくても参加可能な組織とし、名称も「公民館整美部」に変更
 - ③ 町会費の集金は組によって年1～4回とバラバラだったものを年1回に統一
 - ④ 公園の草取り箇所（防草シート設置、未舗装道路の舗装等）や公民館清掃業務の業者委託等による住民の作業負担の軽減
 - ⑤ 町会行事のスクラップ＆ビルド（盆踊りを廃止し、代わりにPTAと連携した子ども対象の夏祭りを実施）

- ⑥ 市ホームページ内の「地域の掲示板」を活用した積極的な情報発信

成果・今後の展望等

- ・ アンケート等により、若い世代を含めた住民意見を聞くことができるようになった。また、町会内の様々な危険個所が明らかになり、市への改善要望や補助の活用につながるなど、地域の安心・安全の確保にも役立っている。
- ・ 業務改善に取り組む中、この2年間に町内で発生した火災や冠水等の災害を経験した。十分な対応ができなかったことを教訓として、町会としてできる事は何か、引き続き検討している。防災・安全の初期対応（危険個所の把握、災害時の安否確認、初期消火など）こそが、町会の重要な役割であると認識した。

【ポイント】

- ▼ 定期的な組長アンケートにより、町会内の意見を幅広く聴取し、改善計画に反映
- ▼ 防災・安全の初期対応（危険個所把握、災害時の安否確認、初期消火など）こそが町会の重要な役割である。